

## 生活再建相談会@盛岡のお手伝いをして

6月25・26日に日本FP協会岩手支部主催「生活再建無料セミナー&相談会」が盛岡で開催され、私も少しお手伝いしてきました。今回は、その時の状況や盛岡に行って気がついたことなどをレポートします。

注目すべきは、ファイナンシャルプランナーだけでなく、税理士、社会保険労務士、司法書士、土地家屋調査士、弁護士など他の専門家も参加するワンストップ相談会のスタイルが実現したこと。

FP協会岩手支部が一度小規模な相談会をした際、相談内容が多岐にわたり、FPだけでは対応するのはむずかしいと実感し、今回は各団体に協力を要請したとのこと。どの団体もワンストップ相談会に意気を感じ、両日数人ずつの専門家を派遣してくれました。

主催者側は万全の体制だったのですが、相談に見える方はそれほど多くない結果に。考えられる理由はいくつかあり、まず盛岡市は沿岸部から距離があるため被災者の多くは盛岡まで来るのが大変であること。仮設住宅に移ったばかりで日々の暮らしで手いっぱいだったり、まだ避難所で暮らしている方もいます。車を数時間走らせて「相談する」段階ではないのでしょう。

では、被災地に出向けばもっと利用してくれるのかというと、そうとも言えないようです。沿岸部の被災地に出張相談に出かけた地元FPの方によると、何か相談はありますかと尋ねても「うちより隣の家のほうが大変だから、そっち行ってあげて」と言われ、隣に行くと「あそこの家のほうがもっと大変だから」と、みなさん自分のことより他のお宅を気遣いされるようで、なかなか相談しないそうなのです。

東北の方ならではの我慢強さや他者に対する気遣いなのでしょう。ま

た、「何を相談していいかわからない」という段階な

のかもかもしれません。

しかし、被災された方が行うべき手続きは多岐にわたり、煩雑です。我慢強く、遠慮深い気質は美德であると思いますが、今後のさまざまな手続きにおいて専門家の無料相談などをぜひ利用して欲しいと思います。

国や自治体からの支援金や義捐金については、口コミ情報などで広がっているようで、申請手続きは進んでいるとのこと。家族を亡くされた方は、次の段階として社会保険や民間保険の手続きが発生しますが、自宅や勤務先が津波で流出されていると、申請・請求漏れをしてしまう可能性は高くなります。

震災ではなく病気で家族の誰かが亡くなったとします。お葬式が済んだところで、保険証券などを取り出し、保険会社に請求する。また、亡くなった方の勤務先からアドバイスをもらって社会保険の手続きをする。通常は、このような流れになるかと思えます。

しかし、自宅に保管してあった書類が流出していたら、家族がどんな保険に加入されていたのかわかりません。勤務先の書類も流されているケースもあることでしょう。困っていることが明らかであれば、途方にくれるでしょうが、申請・請求すべき事柄を知らないと、途方にくれることもなく、そのままになってしまうかもしれません。

「人と話をする」ことで、気がついていなかった「困ったこと」や「これから発生する困ったこと」が顕在化する場合があります。そういう意味で、専門家と話をするのは相当役に立つはずなのです。

各団体が被災地に出向いて相談会を開催していますから、被災された方は他人に相談するのは慣れないことで恥ずかしいかもしれませんが、世間話でもいいので専門家と話をす

ることをお勧めします。

盛岡での生活再建相談会でセミナーをされた社会保険労務士の方が「被災者の方と話をするためには、心に土足に踏み込むようなことはせずに、ノックしながら近づいていくことが大切。岩手では社会保険の申請漏れゼロ件を目指します」とおっしゃっていたのが印象的でした。

## ●労災給付の申請漏れに注意

申請漏れを防ぐためのいくつかのポイントを紹介します。

## 【保険・共済】

証券がなくても申請できます。加入の有無は、生命保険協会、損害保険協会など業界団体が窓口を設けていますので、そちらに問い合わせると各保険会社に契約照会されます。

## 【社会保険】

勤務時間中に亡くなられた方は労災保険からも遺族補償年金が受給できます。死亡届の手続きをすると、遺族年金（厚生年金・基礎年金）の申請の流れに進みそうですが、労災は気がつかないと申請漏れになりえますから注意しましょう。

前述の社会保険労務士の方から「今回労働基準監督署は、勤務先が流出して賃金台帳がなくても、最低賃金で給付するから、まず申請するようにと言っている。あとで差額があれば、上乗せ給付するとのこと」と聞きましたが、仕組みをちゃんと知らないと、最低賃金をもとに給付されても、本来の金額の再申請などできません。労災の給付が受けられる人は、社会保険労務士の相談を受けるのは必須だと思います。

FP協会岩手支部では、月に2回被災地の避難所へ出張相談会に出向いています（宮城支部、福島支部もそれぞれ地域に合わせた活動しています）。7月25日の宮古市での相談会に同行させてもらうことにしました。「そろり、そろり」とお話しながらのアドバイスを心がけたいと思います。（クルー 深田晶恵）